

消費生活アドバイザー資格 役立ち事例紹介

「仕事・活動・日常生活での役立ちアンケート（2023年7月実施）」より

【スキルアップ】

- 重大製品事故報告制度等に関する業務を行っていることから、消費生活製品が取り巻く法律の関係性の理解がしやすくなった。 <20代 製造業>
- 食品会社のお客さま相談室に勤務しています。特に食品由来の危害要因とリスクで学んだ『食の安全確保』は、食を扱う会社として、全般的な考え方が整理できて役立ちます。 <50代 製造業>
- 社内有資格者でつくる組織があり、それを起点に社内での新入社員教育の講師、カタログチェック、新商品や試作品のチェック、お客さま相談窓口へのミステリーコールなど、様々な活動を実施しております。 <50代 製造業>
- 「消費者・企業・行政」「消費者の権利」など多くの考え方をフレームワークとして応用して、さまざまな物事をバランスよく思考することができるようになった。 <50代 製造業>
- 社内新入社員向けの消費者トラブル研修の講師として活躍。 <50代 製造業>
- 所属している会社での製品安全性評価の推進に役立っています。特に、取扱説明書等の製品表示作成を支援し、取扱説明書等の作成ガイドや完成度チェックリストを作成し、関係部署での活用を広げつつあります。 <60代 製造業>
- 社内での有資格者による各種 WG 活動に参画でき、スキルアップになっている。 <60代 製造業>
- 社内でお客さま向け文書の審査を行う上級会議のオブザーバーに任命され、実際に自身の意見が反映された文書が多くのお客さまの目に触れることになり、社内報等でも紹介されました。 <40代 金融・保険業>
- 学校や企業等で消費者教育の出前授業を実施しているので、消費者問題や消費者教育の背景がわかっていると自信をもって話せる。 <40代 金融・保険業>

- 消費者からの苦情対応で、契約に関する知識を活かしつつ寄り添い対応ができるようになった。 <50代 金融・保険業>
- 金融機関に勤務しています。近年消費者保護の観点からさまざまな取組や施策が実施されるにあたり、消費生活アドバイザーとしての知見は職場内の業務遂行や後輩指導に非常に役立っています。高齢化やデジタル化による社会課題や消費者トラブルの理解は、お客様対応にも活かされています。 <60代 金融・保険業>
- 業務における消費者志向経営やコンプライアンス面での理解が深まった。 <60代 金融・保険業>
- 現職場での業務（BtoBの営業全般の法的サポート）について資格で学んだことが役立っている。 <50代 卸・小売業>
- 部下の教育、率先垂範していることにより部全体のスキルが上がっている。 <60代 卸・小売業>
- それまでは、自分の業務を、「対顧客」という観点でしかを捉えていなかったが、消アド取得の学習により、「消費者」を対象とした業務として新たに位置付ける事ができ、視野が広がった。 <60代 卸・小売業>
- 業務上、広い商品や法的知識が必要となるため、法務部出身でなくともある程度の法的知識などをつけることができる。 <50代 運輸・通信業>
- お客様相談室の仕事をしています。顧客・行政・企業の繋がり、社会全体の方向性や問題点を学び、日々のお客様対応に活かすことができます。 <50代 運輸・通信業>
- 現在コンプライアンス関係の業務に就いているため、様々な事案解決の判断材料になっている。 <50代 サービス業>
- 社内の他所管で作成する顧客向け資料について意見付けをする社内副業制度に登録し、顧客視点からの意見付けを行っている。 <60代 サービス業>
- 事業者として消費者への情報提供のあり方や提供するサービスを考える上での視点として大いに役立つ。 <50代 サービス業>

- 学校の授業で、他の先生方が苦手とする家庭科の消費生活の学習を、自信をもって指導できる。 <50代 国・地方公共団体>
- 国の施策に対する問合せ、相談窓口の対応をしているが、特に高齢者の場合自ら遂行不可能な状況が多々あり、その解決策としていくつかの手段をアドバイスするが、その際に学習内容が役に立つ。 <60代 各種団体>
- 医療・福祉の現場、食品製造業の現場の第三者審査を担当しています。現在の医療・福祉サービスの現場では、医療・介護サービス提供機関と患者との連携が重要であり、消費生活アドバイザーの視点（関係者の役割、機能を理解した上で当事者の活動や環境、および制度の改善につなげる）は、これら連携の意義を理解したり、改善提案に役立っています。 <50代 その他>

【キャリアアップ】

- 職場の全社プロジェクトに応募する際、資格を持っていることで手を挙げやすくなった。参加後も、取得時の知識や資格者からの情報を社内で活かすことができた。 <50代 製造業>
- 資格を取ったことで職場で注目されるようになった。自分自身、資格取得勉強がきっかけとなり、いろいろなことに興味を持つようになった。 <40代 金融・保険業>
- 専業主婦から消費生活アドバイザーとして今の会社に採用されて17年、専門職として働いている。 <60代 卸・小売業>
- 社内制度の専門職資格認定で有利になる。 <50代 サービス業>
- 現役時代は企業のお客さま相談室に所属し、顧客部門の役職のキャリアを構築した。 <60代 サービス業>
- 行政で働いており、そこでも各種講座の講師をしているが、アドバイザーの資格を有していることで、行政に依頼の来る講座以外にも幅広い講座の講師を受託できる。 <60代 国・地方公共団体>